

第3回定例研究会

「箱とプロセニウム（額縁舞台）」

第3回定例研究会は、舞台美術家の板坂晋治先生をお招きして、「箱とプロセニウム（額縁舞台）」というテーマで講演いただきました。板坂晋治先生のご経歴は、下記の通りです。

【講師プロフィール】

京都市立芸術大学時代から学内劇団「アトリエ座」にて活動する。NHK 大阪テレビ実験放送に参加のために入局し、その後読売テレビ入社。関西を中心として演劇やオペラ、舞踊などの舞台デザインを約1,000作品手がけた。読売テレビ退社後は大阪芸術大学舞台芸術学部舞台美術コースの教授をつとめる。また、ピッコロ舞台技術学校や、1995年に立ち上げたみらい舞台美術塾で後進の指導に尽力している。

1995年伊藤熹朔賞、1999年兵庫県文化功労賞、2000年日本放送作家協会関西支部より放送ディレクター賞特別賞、2001年大阪市市民表彰、2007年第13回ニッセイバックステージ賞、他多数受賞。

著書に『舞台美術・劇空間を求めて50年』（1996 京都書院）『地域演劇を共に60年』（2006 レベル）がある。

講師

板坂 晋治 氏（舞台芸術家）

テーマ

箱とプロセニウム（額縁舞台）

講演日

2009年7月4日（土） 14:00～17:00 受付開始 13:30～

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 K205

申し込み

不要

